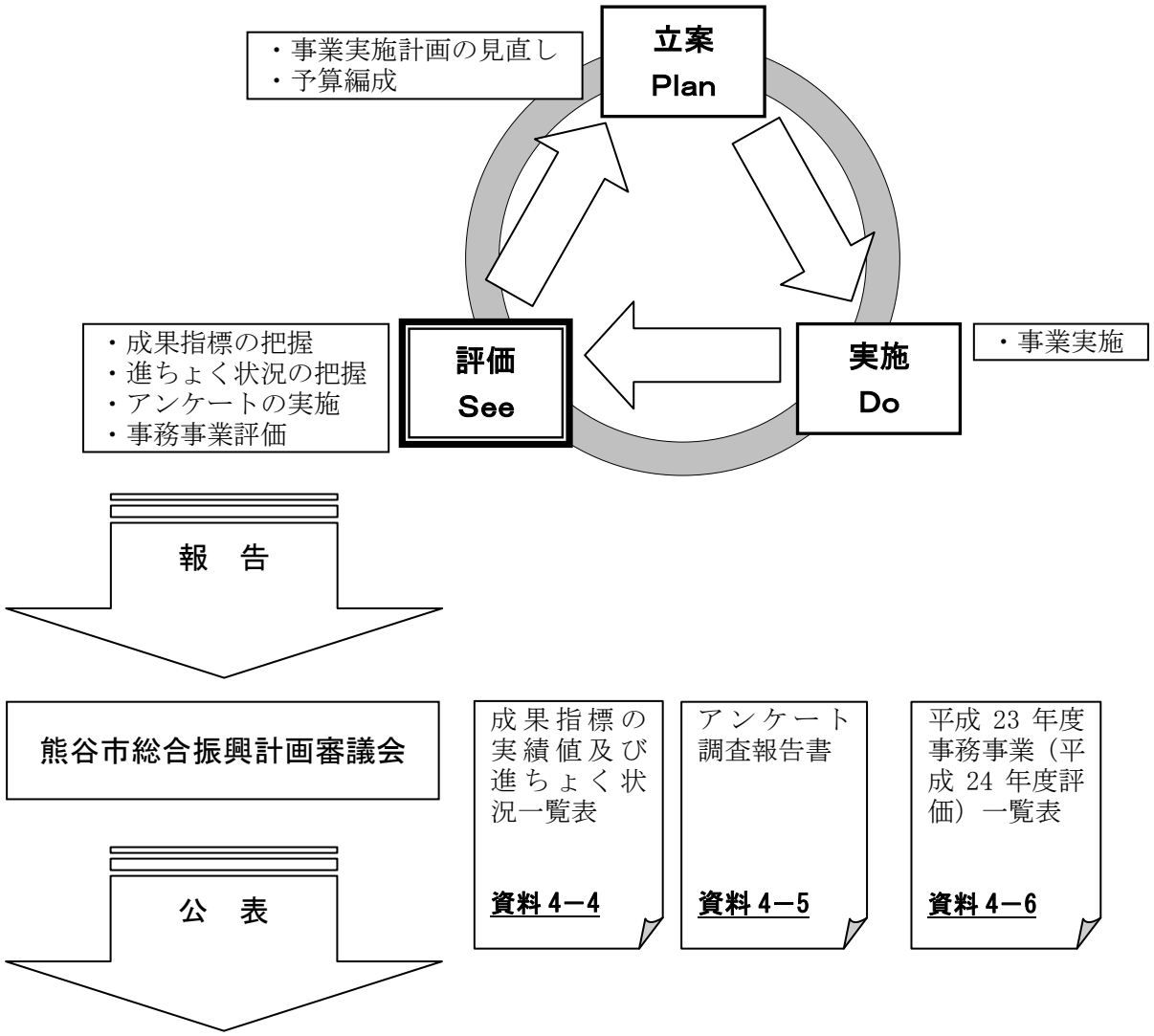
資料　４－３

（２）　熊谷市総合振興計画の推進状況について

①　行政評価による進行管理の全体イメージ



評価の範囲

政策	施策	単位施策	No.	事務事業名	総合評価
1　魅力ある郷土をほこれるまち					
	1　全国に発信できる特色をつくる				
		1　全国に発信できる特色をつくる			
			1	「暑さ対策」涼しさ体感アート事業	継続

② 成果指標の実績値及び進ちょく状況について

ア 考え方

総合振興計画における単位施策の評価は、成果指標の実績値及び進ちょく状況、施策の重要度・満足度及び事務事業の評価を勘案し実施しておりますが、平成２３年度の状況を報告します。

成果指標には、統計などの客観的なデータから把握する数値と、市民アンケートにより把握する数値があります。

事業担当課は、成果指標の実績値及び進ちょく状況を把握しました。

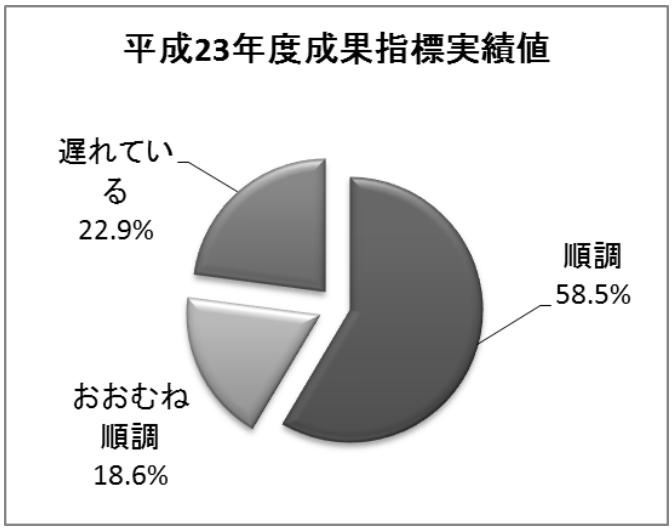
行政評価担当事務局は、「市民生活の現状および満足度についてのアンケート調査」により成果指標の実績値及び施策の重要度、満足度を把握し、これらの状況を取りまとめて報告資料としました。

成果指標の実績値は、**資料４－４**（成果指標の実績値及び進ちょく状況一覧表）、施策の重要度・満足度は、**資料４－５**（アンケート調査報告書）に記載しました。

イ 成果指標の状況

成果指標の状況（平成２３年度）

順調	82	58.5%
おおむね順調	26	18.6%
遅れている	32	22.9%
合計	140	100.0%



③ 事務事業評価について

ア 考え方

事業担当課が、予算事業ごとに、有効性及び効率性の観点からの定量分析、事業の優先度、必要性、実施主体の妥当性、対象者、受益者負担及び市民ニーズの観点からの定性分析を行い今後の方針を導き出しました。

行政評価担当事務局は、事業の内容、定量分析及び定性分析を勘案し、事務事業の総合評価としました。

また、昨年に引き続き外部評価を導入、外部評価対象事業（24 事業）については評価結果を踏まえ、総合評価を決定しました。

有効性：目的達成状況を示すもので、指標の実績値を目標値で除した値

効率性：コスト改善状況を示すもので、評価年度のコストを基準年度のコストで除した値

コストは実績額（事業の決算額＋人件費）を指標の実績値で除した値

イ 用語の意味

継続：今後も事業の必要性や市民ニーズなどを適切に把握しながら継続して実施する事業。

改善：事業の必要性は認めるが、必要性や市民ニーズなど、さらに、有効性及び効率性等にも配慮しながら実施する事業。

拡大：事業の必要性や市民ニーズなどの高まりにより、既存の事業をさらに拡大して実施する事業。

縮小：事業の目的をある程度達成したか、事業の必要性や市民ニーズが低くなるなど既存の事業を縮小して実施する事業。

完了：事業の目的を達成し、完了した事業。

ウ 事務事業評価の状況

事務事業評価の状況

総合評価	事業数	割合
継続	499	79.3%
改善	12	1.9%
縮小	24	3.8%
拡大	8	1.3%
完了	86	13.7%
合計	629	100.0%

